



堀 新太郎

ペインキャピタル・ジャパン
シニアアドバイザー



祖父の教え



私の母方の祖父田村啓三は、創業家の二代目として終戦まで日本水産の社長でしたが、その後は日産会会長を長年務めていました。旭化成に勤めていた父方の祖父が早くに他界したことや、私が田村の祖父の高輪の家で生まれた関係もあり、私は田村の祖父からとてもかわいがってもらいました。

祖父は小学生であった私を子ども扱いせずに、いろいろなことを教えてくれました。例えば、「いずれ世界で活躍するようになってからも気後れしないように」と言いながら、工業倶楽部などにしばしば連れて行ってくれ、テーブルマナーや海外のことを教えてくれました。この写真は、当時の吉祥寺の日産厚生園で日産グループが毎年開催していた運動会に祖父と姉とで参加していたときの写真ですが、テントの中で財界人

や宮家の方々とお話しをさせていただいたりした、とても懐かしい写真です。

そういう中で、祖父が小学生の私に教えてくれたことは、「恵まれた家庭に育った者は、社会や周囲に貢献する義務

がある」とか、「最高の贅沢ぜいたくとは自分がおいしいものを食べたり贅沢をしたりすることではなく、人に喜んでもらえることをすることだ。でも、それは自分が勝手にやっていることから、相手からの感謝を期待してはいけない」等々、小学生には難解なことでした。でも、今でも鮮明に思い出すということは、子どもを子ども扱いせずに、早くからきちんと教えることは、大人の重要な責務なのだと思います。

祖父は若いころから世界に目が向いていたようで、私のMITへの留学を一番喜んでくれたのも祖父でした。私がその後気後れすることなく、NYのマッキンゼーや投資ファンドなどグローバルなキャリアを歩んでこられたのも、祖父のおかげだと感謝しています。